6-19　実践協力校における授業実践
事例⑲　　綾瀬市立綾北小学校

ポイントになる主な学びのプロセス

- **他者の考えを聞く（自分の考えを再構築する）**
- **主体的に社会に参画する**

Ⅰ　単元計画

1．単元名　自立活動「ありがとうキャンペーンを成功させよう」
～働いている全ての方々や支えてくれている方々や家族へ～
「コミュニケーション力を高める学習」
2　心理的な安定（1）　3　人間関係の形成（1）　6　コミュニケーション（5）

2．単元の目標

個々の児童が自立を目指し、学習上または生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。そのために、意思を決定し、社会に参画する場面において、人間関係をよりよく築こうと、進んで集団活動に取り組もうとすることができる。

①友達とのコミュニケーションの取り方について、適切な方法を知る。
②自分の考えをもち、表現することができる。
③決まったことを実践しようとしている。

3．年間を通した指導計画（7次扱い）

	ねらい（◇）・学習内容（◆）
1	◇課題に対して関心をもち、考えをもとうとする。 ◆卒業までの見通しをもち、「ありがとうキャンペーン」のプランを立てる。
2	◇プラン①（学校のみんなへの感謝）を実行できるように話し合い、準備し、実行しようとする。 ◆「綾瀬オリンピック　綾北小学校大会」を計画し、クラスのみんなと協力して実践する。
3 本次	◇プラン②（働いている全ての方々への感謝）を実行できるように話し合い、準備し、実行しようとする。 ◆「コロナに負けるな!!みんなに感謝フェス2021」を計画し、クラスのみんなと協力して実践する。
4	◇プラン③（クラスのみんなへの感謝）を実行できるように話し合い、準備し、実行しようとする。 ◆「みんなありがとうお楽しみ会」を計画し、クラスのみんなと協力して実践する。
5	◇プラン④（先生方への感謝）を実行できるように話し合い、準備し、実行しようとする。 ◆「先生ありがとうプレゼント」を計画し、クラスのみんなと協力して実践する。
6	◇プラン⑤（学校施設への感謝）を実行できるように話し合い、準備し、実行しようとする。 ◆「学校ありがとう卒業記念制作」を計画し、学校に役に立つ制作を行う。
7	◇振り返りを行い、中学校のキャリア教育にも目を向け、新生活へ向けて希望をもとうとする。 ◆「ありがとうキャンペーン」を振り返り、中学校へ向けて見通しを立て、新生活への希望をもつ。

４．単元の指導計画（６時間扱い）

	ねらい（◇）・学習内容（◆）
1	◇プラン②（働いている全ての方々への感謝）を実行できるように話し合い、準備し、実行しようとする。 ◆「コロナに負けるな!!みんなに感謝フェス 2021」の計画を立てる。
2 本 時	◇「コロナに負けるな!!みんなに感謝フェス2021」を計画し、クラスで話し合う。 ◆最初に、今の状況を自分の事として捉え、２組（自・情）へ提案する。次に１組（知）へ提案を広げ、意見を尊重しながら協力を求めていく話合い活動を行う。
3	◇「コロナに負けるな!!みんなに感謝フェス2021」の内容を決定し、協力して練習する。 ◆全校児童へ周知を済ませ、役割分担を決めて、各自その仕事や練習を行う。
4	◇「コロナに負けるな!!みんなに感謝フェス2021」の本番を実行するため、予行練習を行う。 ◆本番に向けて、６年生の実行委員とともに打合せを行い、リハーサルを行う。
5	◇「コロナに負けるな!!みんなに感謝フェス 2021」の本番を実行し、その活動のまとめを行う。 ◆全校児童に協力してもらい、本番を行い、その様子を各部署に届ける準備や発送をする。
6	◇「コロナに負けるな!!みんなに感謝フェス2021」の活動の振り返りを行う。 ◆計画を基に、よかった点や課題や改善点を考え、次回の別の活動の時に生かせるようにする。

Ⅱ　本時の様子

１．本時の目標　○「コロナに負けるな!!みんなに感謝フェス 2021」の取組について、自分の考えを意思表示することができる。

「政治的教養を育む教育」で身に付けさせたい力の視点

２．本時の展開

過程	学習活動（活動の流れ）	ポイントになる学びのプロセス
導入	**①本時の学級会の流れを知る。** 議題「コロナに負けるな!!みんなに感謝フェス 2021」の話（提案）を聞き、自分の考えを表そう！	**自分の考えを、意思表示することができる。**
展開	②提案の内容を知る。 提案者が作成したプレゼンテーションを見て、自分なりに理解する。 ③「コロナに負けるな!!みんなに感謝フェス 2021」の取組に賛同するかどうか、自分の考えを発表する。 ・「賛成」か「反対」か、一人ひとりが黒板に自分の意見を磁石で表現する。 ・みんなの意見を聞き、「折り合い」をつけるように話し合う。 ④一人ひとりの意見をまとめ、全体としての方向性を共有した上で、具体的な活動を知る。 ⑤具体的な３つの活動（歌・手話・ハンドベル）の中から、残りの時間に練習してみたいものを１つ選び、チャレンジしてみる。	他者の考えを聞く（自分の考えを再構築する） **目指す子どもの姿** 児童が自分たちの学校生活をよりよくするために、議題を見いだし、話し合い、活動を通して自治的能力を育もうとする姿。
まとめ	⑥今日の話合いの振り返りを行う。 ⑦先生の話を聞く。 ⑧次回の活動に向けて、イメージを抱く。	主体的に社会に参画する。

Ⅲ　政治的教養を育むための支援のポイント

ポイント1

『子どもの主体性を大切にすること』が、子どもたちの本当の言葉を引き出します。

学級会では、議題について「折り合い」をつけ、「賛成」「反対」を決め、多数決によって考えをまとめることがあります。その時に大切にしたいことは、「賛成」「反対」した理由です。「なぜ、反対なのか」「どうして賛成なのか」という理由から、次の活動をよりよくするポイントを見つけることがあります。少数意見をよく聞くようにし、その意見を大切にするようにしましょう。

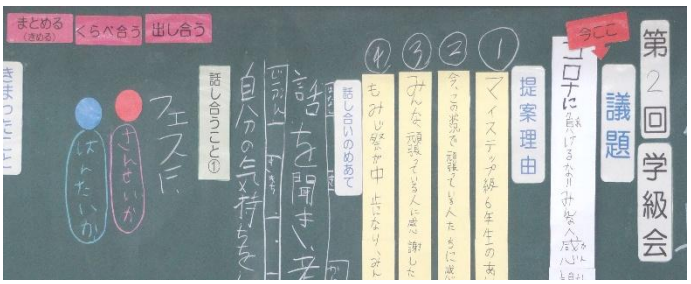
また、自分の考えや意見は、理由を添えて述べることが望ましいですが、表現をすることが苦手な児童もいます。教師は児童が自分の考えを表出しやすいように支援をすることがありますが、「多すぎる支援」は児童の本当の考えを引き出せずに、教師が誘導して回答させてしまうことも考えられます。児童がもつ「本当の思い」を表現させるには、子どもの主体性を大切にすることを心がけましょう。また、そのために、日ごろから児童のできることに注目し、児童が自分だけでできることを増やしていきましょう。

ポイント2

学級会の方法と環境を全校で統一し、自分の思いを表現しやすい環境をつくりましょう。

この学校では、学級会を行う時に掲示アイテムを使用し、「議題」「提案理由」「決まったこと」「話合いのめあて」など、視覚的に学級会の流れや、話合いで大事なことが分かるようになっています。

また、この方法は全学級で統一されており、もうひとつの効果に期待し実践をすすめています。それは、児童が「いつも」と同じ条件・環境で、学級会にのぞむことで、少し緊張する場でも自分の考えや意見を表現しやすくなるのではないか、と考えているからです。「一人ひとりの子どもたちがもつ、自分の考えや本当の思いを大切にしたい」という教師の強い思いから、学校全体への取組として実践されています。



Ⅳ　研究協議

1．自評

「コロナ禍でも毎日過ごせることは有り難いことですね。」とその感謝の気持ちをどのように伝えるか年間を通して、６年生児童と話合いを重ね共に考えた。子どもたちからの提案が、学年、全校児童へと展開するようにと考えている。学級会の進め方について、昨年度は教師が手本を示してきたため、今年度は児童が司会者や提案者という立場となり、話合いをすすめている。児童の必要とする支援を選択しながら、自分の考えや本当の思いを言えるように「子どもの主体性を大切にすること」を大事にして実践していきたいと日々考え取り組んでいる。

2．研究協議のテーマ　＊令和３年度は共通テーマで協議を実施。

○提案授業の児童の姿から、「小・中学校における政治的教養を育む教育」で大切にしたい学習活動（学びのプロセス）は、効果的に取り入れられていたといえるか。

※　学級会の中で出た「折り合いをつける」という言葉に注目した協議を展開。

3．研究協議の成果と課題

成果・なぜその答えを選択したのか、「どうして？」と理由を聞くことが大切。なぜ賛成なのか、反対なのかの理由を聞くことで、「折り合いをつける」ことができるのではないか。それが合意形成であると思う。

・何に取り組むのかが具体的に分かっていないと、賛成・反対は選択できない。最終的な結果はどちらかの答えしかないが、そこにたどり着くためのプロセスが大事であることがわかった。

課題・授業では詳しく聞くことがなかったが、「(取組が) 難しそうだから」を理由に反対した一人の児童の意見をもっと大切に時間をかけるべきだった。少数派の意見を大切にすることで、多数派の意見だった児童の考えも広がり、「折り合い」をつけることになったのではないか。自己肯定感を育み、自分の考えを再構築させるためにも、少数派の意見を発信していくことが大切である。